



2023年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」 受賞者発表

学生のみなさん、ご投票ありがとうございました。
1,378件の投票の結果、以下11名の先生方が2023年度
「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者として決定しました。

おめでとうございます！

2023年度受賞者

テーマ：Chu！好きすぎてごめん！！
～先生の授業なら1限でも喜んで行きます～

教養部門

秋野 喜彦（情報科学部教授）
細沼 祐介（兼任講師）

グローバル・語学部門

乾 浩（兼任講師）
周 重雷（兼任講師）

専門部門

後藤 圭介（兼任講師）
作村 建紀（理工学部専任講師）
佐野 俊夫（生命科学部教授）
首藤 裕一（情報科学部准教授）
新谷 優（グローバル教養学部教授）
丹羽 郁夫（現代福祉学部教授）
李 舜志（社会学部准教授）

※五十音順、敬称略

*なお、以下の先生方は、2022年度以前に殿堂入りされた先生です。
殿堂入りとは、3年連続受賞となる教員を対象とし、殿堂入りした翌年度以降の
3年間は選出対象となりません。

後藤 一美（法学部教授）
塩崎 公靖（兼任講師）
鈴木 美伸（兼任講師）
徐 玄九（兼任講師）
富所 明秀（兼任講師）

植木 紀子（法学部教授）
川島 健司（経営学部教授）
辻本 昭彦（生命科学部任期付准教授）

※受賞年度順、敬称略
※殿堂入り教員の所属・身分は受賞当時のもの

<主催>

教育開発支援機構「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会

2023年度

学生が選ぶベストティーチャー賞



ベストコメント賞発表

先生に投票したのは、具体例を交えた解説と学生の質問に対する丁寧な回答が印象的だったからです。私は最初、抽象的な概念が多く登場するこの講義に苦手意識を持っていました。しかし、日常生活の場面を切り取ったような先生の体験談を共感しながら聞いているうちに、難しいと感じていたはずの概念がストーンと腑に落ちることが何度もあり、苦手意識もすぐなくなりました。この講義を通して身についた、身近な事例に引き付けることで自分の言葉で説明する術は、他の学習でも大いに役立っています。また、毎回のリアクションペーパーに対するリプライが非常に分かりやすいだけでなく、そこから新たな考え方を提供したり派生した問いを投げかけたりと深掘りしてくださるので、自分の興味や視野を広げるきっかけにもなりました。1限だったので早起きするのは大変でしたが、履修して本当に良かったと感じています。



先生の授業での工夫が、学生の学びに大いに役立っていることが感じられますね！



先生はとても学生1人ひとりに寄り添ってくれる先生です。大学にはあまりこういう教授はいないです。プレゼン発表やゼミ勧誘など、頑張れば頑張っただけ文面や口頭で労いの言葉をくれます。先日行われた1,2限の合同ゼミ説明会后にメールを頂いた時は、頑張っただけよかったと思えました。私たち学生のことをよく見ていてくれます。それだけでなく、授業の内容もとても楽しいです。基礎的な経済用語から現状分析、時には用意してもらった文献にあたりたり新聞記事を読んだりして、充実したゼミ活動を行っています。先生の好きなところは、必要なときはしっかりわたしたちにきつい言葉で伝えてくれるところです。ただ甘いだけの先生ではありません。提出物やプレゼンのクオリティなど、改善の余地があればストレートに伝えてくれます。だからこそ、頑張れば相応に褒めて貰えます。先生のもとでなら、自分は成長できるという確信があります。

親身で熱心に学生に向き合ってくれる先生なのが伝わってきました！



Best comment
award



春・秋とスペイン語を受講していました。教科書だけでは情報量が少なく理解が難しいとき、先生オリジナルのプリントを配布していただき、より分かりやすく解説してくださいました。「ここはもう覚えるしかないから頑張れ」と言えるにも関わらず、できる限り覚えやすい方法を教えてくださいました。解説の際も「そういうものだから」ではなく「なぜそうなるのか」まで説明してくださいました。授業内に練習問題を解き、指名されて間違ってしまった時も直接的に「間違っている」とは言わず、丁寧に正解へと導いてくださいました。言語は自動で授業が決まりますが、本当に先生で良かったです。学生に寄り添ってくださる本当に素晴らしい先生です。先生がプリントまで準備してくださいましたのだから、私もテスト勉強を頑張ろうという勉強のモチベーションにもなりました。1限だとしても先生の授業ならば頑張っ

て起きます！

先生の熱意とやさしさが感じられ、
学生を置き去りにしない授業の工夫と
ともに、魅力が伝わってきますね！



まず第一に、講義内容・形態の分かりやすさがあります。授業開始直後に前回の復習テストがあり、どの部分が植物病の防除に重要なのか、何が間違いやすいポイントなのかが自己確認できます。また、配布資料も図・写真が多く、全ての内容が文章で書かれている訳ではなく口頭での説明なので、知識が定着しやすく、授業への参加意識も高まります。さらに、前職での経験をお話しすることも多々あり、実際に植物病を防除する際の（社会で働く際の）注意事項や心構えなども学ぶことが出来るのも先生の授業の魅力だと思います。

第二に、上記の様な内容だからと言って堅苦しくない授業雰囲気、さらに学習意欲を高めることに貢献していると思います。最近の植物学界隈の時事問題や先生ご本人が体験した出来事などを、アイスブレイクとして、復習テスト（とそのフィードバック）の前後にお話しして下さるので、気張り過ぎずに適度な緊張感を持って受講できます。

学生が感じた授業の良い点や、授業を受けて
どのようなプラスの効果があったのか、
具体的に整理されていてわかりやすいです！



Best comment award

授業中のジョークや雑談がとても面白いです。私たち日本人には馴染みのない話や過去の経験を面白く話してくれます。授業が始まる少し前に教室に行くとさらに詳しく話してくれます。また、基本的に教室にいる時は英語で会話することを求められるため、自身の英語力向上に繋がります。長い期間英語を教えていることから、日本の学生が分かりにくい表現や単語を熟知しており、英語が苦手な学生にも分かりやすく説明してくれます。そして、学生が授業の内容を理解しているかを授業中に聞いてくれます。理解していない場合には丁寧に教え直してくれます。他の授業では、このような丁寧さや熱意を感じられないと思っています。私は、英語が苦手であり、外国人と会話をする経験が無かったため、外国人の先生による授業を受講することに不安を抱いていました。しかし、この授業のおかげで海外の人と関わる楽しさと英語の面白さを学ぶことが出来ました。

苦手意識をなくしてしまうほど、その教科の楽しさを全力で伝えてくれたんですね。先生の授業を受けてみたくなります！



メディア学に対する教授の情熱は本当に素晴らしく、その情熱が授業をさながら舞台のようなものに変えています！毎回、教授の熱意ある講義に引き込まれ、その場にいること自体が楽しみです。そして、特筆すべきは、学生が自分の考えを述べる時に、教授は決して否定せず、「その考え方は新しいね！」などといったポジティブなコメントを返してくれることです。この雰囲気のおかげで、私たちは自由に意見を出し合える環境にあります。教授の指導のもとで学ぶことは、単なる知識の習得以上のものです。教授の授業を通じて、メディアに対する新しい視点や価値観を得ることができ、それが私たちの人生や社会に対する理解を深めています。教授の情熱とサポートがあるのおかげで、授業を受けるたびに私たちは成長し、世界がどんどん広がっていくような感覚です！

素敵な雰囲気での授業で学べたことがありありと伝わってきますね！



※上記コメントは、投票いただいたコメントに一部修正を加えて掲載しています。

主催：教育開発支援機構「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会